

そ の 他

「言語力」大賞コンテストのねらい

雨 森 道 紘*

弘前大学附属図書館は、平成17年度10月に「第1回弘前大学学生『言語力』大賞コンテスト」を企画しました。ことの発端は、昨年の国会での「文字・活字文化振興法案」の成立です。平成17年7月20日の朝日新聞社説記事によれば、『やはり読書が必要だ』という見出しで、1年前の文化審議会の答申「今後の社会では今まで以上に国語力が必要だ」という紹介も含めこの法案の必要性を述べています。例えば「大学生の採用試験で企業が最も重視するのは、コミュニケーション能力である。伝える力や聴く力の乏しい学生が少なくないからだ。言葉の力をつけるには、言葉と出会う機会を増やすに限る。それには本を読むことが欠かせない。」...と。

はてさて、弘前大学にとってのこの法案のよりインセンティブのある活用法は？たどり着いた先に待っていたのが「言語力」コンテストとなりました。募集のポスターの中身は次のようになっています。

『言語力』とは、読む力・書く力・調べる力・伝える力を含めていいです。
弘前大学附属図書館は、学生の皆さんに『言語力』を養ってもらおうと、以下の2部門からなる言語力大賞コンテストを行ないます。

部 門

文章表現のみによる部門

短編小説（題材自由）

テーマを選択し、公開プレゼンテーションを含む部門（今回は次のテーマのみ）

「世界に発信し、地域と共に創造する 弘前大学」（本学のモットー）

のために本学の学生として何ができるか

言語力コンテストの第一部門は、文章表現のみによる部門とし、17年度は短編小説のみとしましたが、次年度からは他にエッセイ、書評、感想文など、文章表現に関わるものを全て対象として扱う予定です。第二部門では、パワーポイントを用いたプレゼンテーション能力を競う内容となっています。これは、個人で参加することは勿論ですが、グループでの参加も可能なので、年度始めからの21世紀教育科目の基礎ゼミナールで、その目的の一つである、『課題発見能力を高めること』に自信を得たならば、多くのゼミナールのグループがふってその成果をこのコンテストで発揮して貰いたいと考えています。将来、学問・研究を目指す人も、また企業や社会での活躍を目指す人も、言語を用いた確かなコミュニケーション能力ほど必要不可欠なものはありません。そのためにも、このような機会を大いに利用し、言語力に関する様々な能力を鍛えておいて貰いたいと考えています。

* 弘前大学附属図書館長
University Librarian, Hirosaki University Library

このコンテストの企画の発表が17年度後期となったために、作品の準備に十分な時間をとれなかったことや、企画が十分に周知されなかったと思われるにも関わらず、このたび小説部門には12編の作品が集まりました。しかも投稿者は全ての学部に亘っています。作品については現在選考中ですが、力不足や力作と色々ですが、中にはやはりウーンと唸らせる大賞にふさわしいと思われる傑作がいくつか存在しています。これらを数年分纏めれば、将来「言語力コンテスト傑作小説集」としてわが大学の出版会からの単行本化も夢ではないかもしれません。(なお応募作品名などの詳細については、図書館HPでの電子版図書館報「豊泉」第26号(2006 3)を参照してください。)